

『和歌山県レッドデータブック』の改訂にあたって

和歌山県は、紀伊半島の南西部に位置しており、県土の大部分を占める山々は四季を通して変化に富んだ自然景観を映し出し、約 650 km におよぶ海岸線には名所景勝地となる貴重な地形・地質が数多く残るなど、全国に誇る自然環境を有しています。また、気候にも恵まれ、黒潮の影響により、温暖で雨量が多く、森・川・里・海では学術的にも重要な動植物が数多く生息・生育するなど、豊かな生態系が形成されています。



我々は自然や生態系から多くの恩恵を享受して生活しております。県では、このような自然環境や生態系サービスを未来へ継承するため、「生物多様性と和歌山戦略」を策定し、自然環境や生態系の保全・継承の指針を示すとともに、貴重な自然林の保護や自然公園の見直し、保全を担う次世代人材の育成、シンポジウムの開催など種々の施策を展開してきました。また、稀少生物保護に関しては、採集を規制するだけでなく、生息環境と一緒に守るようしなければ効果がないため、県指定の天然記念物は、特別な場合を除き、県内全域を対象とした種指定ではなく、本当に守るべき生息・生育地域を限定指定し、生息環境ごと保護することとしています。私自身も昆虫少年として自然と深く関わりながら成長してきましたので、現場を知る者として、先頭に立って自然環境や生態系保全の政策を進めています。

レッドデータブックは、自然環境や稀少動植物に対する関心を高め、理解を深める資料として、平成 13 年に初めて『保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－』を、平成 24 年に『2012 年改訂版』を発刊し、多くの方々にご活用いただいております。その後、動植物の生息・生育状況の変化を確認するため、平成 28 年から現場に精通した自然愛好家の方々が専門調査員となって現地調査等を開始し、この度、調査結果や学術的知見等がまとまりましたので、『2022 年改訂版』を発刊するに至りました。

今回は、新たに「菌類」と「その他無脊椎動物」を追加し、10 分類群・1,655 種の稀少生物を掲載するとともに、その多くを写真付きで紹介するなど、更なる内容の充実と分かりやすさに努めました。加えて、貴重な動植物が多く生息・生育する生態系が連続する地域等を「生物多様性保全上注目すべき地域」として掲載・解説しております。

本書によって、和歌山県の稀少動植物や自然環境の現況が広く認識され、自然や生態系の保全に関する取組が加速することを期待しております。

最後に、本書の作成にあたり、7 年間の長きにわたって、調査活動や種の選定、原稿執筆等に御尽力いただきました 48 名の専門調査員の皆様には、心から感謝申し上げますとともに、生物情報や写真提供などに御協力いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます、改訂にあたっての御挨拶といたします。

令和 4 年 11 月

和歌山県知事 仁 坂 吉 伸